



思考への探求

校内研究だより

令和7年10月26日

No.4

— 挑む力 —

学ぶこと・考えることを楽しむ

全教科で育てる「言葉の力」

～失敗をおそれず 自ら学びを進める子どもの育成～

2025年10月22日、本年度第4回校内研究として、山口教諭（2年2組担任）と河野教諭（4年2組）による算数科の公開授業が実施された。今年度の研究テーマは「学ぶこと・考えることを楽しむ全教科で育てる『言葉の力』～失敗を恐れず自ら学びを進める子どもの育成～」である。

「言葉の力」を育む授業実践

2年2組で行われた「かけざん（2）」の授業では、提示された魚が何匹いるのかを工夫して計算で求める学習であった。前日に社会科見学で水族館見学していた子どもたちは、魚への興味も高く、進んで学習に取り組んでいた。子どもたちは、解決方法を図に書き込んだり、立式したりしながら自分なりに表現をし、友達へ自分の考えを発表しながら理解を深めていった。

4年2組で行われた「計算のきまり」の授業では、花壇に植えてある花の数をいろいろな方法で数える学習であった。ジグザグに植えられた花をどのようにして数えていけばよいのか、子どもたちは何枚もワークシートに書き込んでいた。その後、自分の考えと友達の考えを共有し、自分とは違う考え方に触れながら理解を深めていった。



研究協議会での評価と課題



研究協議会では、山口教諭の水族館見学後の魚の教材、河野教諭のたし算やひき算等の記号のキャラクター化など、導入段階での子どもたちへの興味のひき方、子どもたちが取り組みやすいワークシートの作成などが評価された。

一方で、説明が多すぎたことや、めあてに沿った立式以外の立式も多くなってしまったことなど、いくつか課題も話し合われた。

上所小学校 志田倫明先生からの御指導

志田先生からは、今回、両授業ともかけ算を活用する授業だったことから、学習指導要領の内容に沿ってお話をいただいた。乗法の意味や式表現、式読みの指導についてあらためて確認することができた。授業者が目標をもって系統的に指導していくことの大切さにも気づかされた。

今後の展望

算数科の授業を通して、立式したものを「言葉で説明する」学習から、「言葉の力」の育成が見えた。今後は、図やグラフ、表などで表したもののでも「言葉で説明する」活動を設定して、子どもたちの「言葉の力」を育成していきたい。